れきはく通信 第１９号

発行：新潟県立歴史博物館
（編集　前嶋敏）
2026 年 6 月 15 日

夏季の「布」展にいらっしゃい

当館では、令和 8 年 7 月 11 日（土）から 8 月 23 日（日）まで、夏季テーマ展「初公開□布□新収蔵品」を開催します。今回の展示では、近年寄贈された資料の中から「布」に関わる 4 つの資料群―「裁縫雛形」「一之貝絣」「大麻（アサ）の布」と「苧麻（カラムシ）の布」を取り上げて紹介します。

「裁縫雛形」　明治生まれの女性が、故郷の村上を離れ上京し、当時最先端の裁縫技術や教養を身につけた手仕事の資料群です。和装から洋装へと移り変わる時代の様子を読み解くこともできます。

「一之貝絣」　「一之貝絣」を最後に織った女性から寄贈された資料群です。織る技、絣への愛着と喜び、そして糸をやりくりしながら家族の衣生活を支えてきたひとびとの姿を知ることができます。

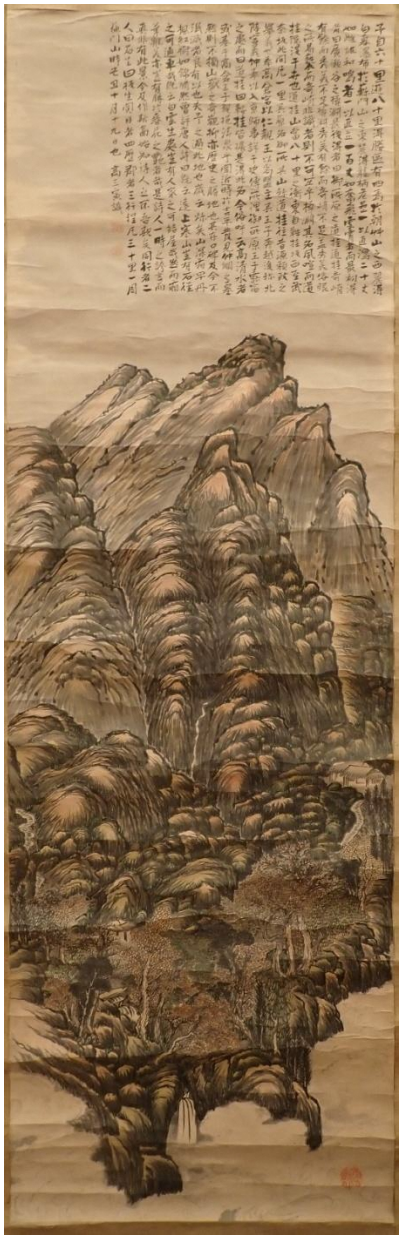
「大麻（アサ）の布」　信濃川中流域にある一軒の家から寄贈されたアサの資料群です。アサが生活の中でどのように利用されてきたのか、その実態に触れることができます。

「苧麻（カラムシ）の布」　越後上布や小千谷縮など、現在では県内に残りにくくなった布を、熱心に収集した方の資料群です。模様の流行りや素材の変化とともに着物の移り変わりの一端も楽しんでいただけます。

（陳　玲）

高橋竹之介画賛「八十里越図」

新潟県立歴史博物館では、高橋竹之介のご子孫の方から、竹之介ゆかりの資料の寄託を受けています。高橋竹之介は南蒲原郡杉之森（現長岡市）の庄屋の家に生まれ、私塾・長善館で学び、尊王を志し上京、西国各地を遊学したのち、公卿澤家に仕え、尊王運動に身を投じました。戊辰戦争に際し、越後に帰り、方義隊（のち居之隊）を結成。越後方面の実質的な司令官であった山県有朋の道案内などを務めたそうです。戦後は東京遷都に反対し入獄したのち帰郷、長岡で漢学塾・誠意塾を設立、子弟の教育に尽力しました。当時、竹之介の漢学、漢詩が高く評価されていたようで、県内各地に多くの揮毫が残っています。



画像　竹介先生神剣峰詩幅

（高橋竹之介子孫会寄託）

その中でも貴重といえるのが、竹之介が八十里越を描いたものです。落款から詩画ともに竹之介のものと考えられ、詩の末尾にある明治 22 丑年 10 月 19 日に八十里越を訪れたとの記載は竹之介の事績とも一致しています。詩文では、以仁王ら歴史上に登場する人物が八十里を越えた事例から、その歴史を紹介するとともに、秋深まる時期の紅葉の美しさを謳っています。なお、箱書きには『竹介先生神剣峰詩幅』とあり、荘厳で険しい八十里を象徴する題が付されています。

八十里越を描いた絵画は希少なだけでなく、年代が特定できることから非常に貴重な資料ということができます。機会を見て公開できればと思っています。　　（田邊　幹）